

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
第12回部会

協議記録

日時：令和2年10月30日（金）13：30～16：30

会場：大館市北地区コミュニティーセンター 別館2階 多目的室

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 第12回部会 出席者名簿

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	森林組合	大館北秋田森林組合	森林整備課長	阿部 昌宏	再造林部会
2	素材生産者	(有)阿部林業			欠
3		(有)島山造林			欠
4		(有)花田造材部			欠
5		(有)伊東農園	部長	佐藤 保	再造林部会
6		(有)新林林業			欠
7		(有)山田造材部			欠
8		山一林業(株)			欠
9		石上木材			欠
10		小林林業			欠
11		(有)佐栄林業			欠
12		(有)中田工業			欠
13		(株)石川組	代表取締役社長	島崎 祐男	再造林部会
14		苗木生産者	秋田県山林種苗協同組合北秋田支部		
15	農事組合法人上仏社営農組合				欠
16	製材・加工事業者	遠藤林業(株)			欠
17		(株)沓澤製材所	代表取締役	沓澤 一英	秋スギ部会
18		九島木材(株)			欠
19		藤島木材工業(株)、藤島林産(株)	代表取締役社長	藤島 眞砂子	秋スギ部会
20		ニツ井パネル(株)	社長	鈴木 稔	秋スギ部会
21		古河林業(株)	秋田工場長	藤島 勉	秋スギ部会
			阿仁林業所長	福森 卓	バイオ部会
22	ティンバラム(株)			欠	
23	木材需要者	大館曲げわっぱ協同組合			欠
24	木質バイオマス事業者	北秋容器(株)			欠
25		ボルター秋田(株)			欠
26		K S ウッドソリューション(株)	工場長	鈴木 誠幸	バイオ部会
27	木材流通事業者	物林(株)	プロジェクトマネージャー	齋藤 政子	秋スギ部会
			国産材営業室	関口 祐之	再造林部会
28	学識経験者	秋田県立大学木材高度加工研究所	准教授	足立 幸司	
29	市村	大館市	林政課長	古川 泰幸	事務局長
			林政課長補佐	小棚木 信晴	
			林政課木材産業係主査	赤坂 祐幸	
			林政課木材産業係主任主事	千葉 泰生	
			林政課木材産業係職員	安部 千夏	
			林政課森林整備係主査	安保 貴洋	
			林政課森林整備係職員	仲谷 寿敬	
30	北秋田市	副主幹	藤田 学		
		主事	長岐 英泰		
31	上小阿仁村	主査	田村 勇輝		

大館北秋田地域林業成長産業化協議会委託事業者

番号	名称	役職	氏名	備考
1	森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社	代表取締役	高田 克彦	

大館北秋田地域林業成長産業化協議会オブザーバー

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	行政機関	米代東部森林管理署	署長	一ノ宮 秀和	
			森林技術指導官	吉川 浩人	
			主任森林整備官(資源活用)	片岡 雄	
2	米代東部森林管理署上小阿仁支署	総括森林整備官	古川 博哉		
3	秋田県農林水産部	主幹	木村 明憲		
4	秋田県北秋田地域振興局	農林部森づくり推進課 主幹兼班長	工藤 純一		

第 1 2 回部会では、「令和 2 年度事業進捗状況について」、「令和 2 年度各部会の取組状況に関する意見交換」について協議を行いました。

【協議内容】

(1) 令和 2 年度事業進捗状況について

①大館北秋田地域林業成長産業化協議会

◇総務部会<事務局>

- ・資料に添って説明。

○協定フィールドの進捗状況について<総務部会 部会長>

- ・ 11. 25ha について、9/30 県から補助金決定を受け 10/1 に皆伐再造林として市と契約。
- ・ 10/7 に事業体 2 社が請負 (①3. 13ha、②8. 12ha)
- ・ ①は植栽を残すのみ、②は伐倒で 8 割終了、現在は造材している状況。
- ・ いずれも植栽は来年春予定、6/30 で全行程終了の予定。

○販売状況について<総務部会 副部会長>

- ・ 総材積 3, 500 m³の見込みに対し、700 m³が 10 月で販売。
- ・ 合板工場、製材工場、バイオマス施設へも順調に販売できている状況。
- ・ 今回のフィールドから一部、社屋内装用の LVL 用原木として出荷した。
- ・ 最近 LVL も構造材だけでなく内装用壁材として利用が増えているため、新たな利用法として営業に取り組んでいきたい。

◇秋田スギ・認証材利用促進部会<事務局>

- ・資料に添って説明。

○アンケート集計について<森林資源バイオエコノミー推進機構(株) (委託事業者) >

- ・ 今は単純集計の段階。これからクロス集計を進め、さらに情報を分析する。
- ・ 回収率 40%という数字はあまり気にせず「回収できた人たちがどれだけ真剣に相手になってくれるか」が大事である。
- ・ このようなアンケートでデータをどんどん収集していけば、クロス集計の精度が上がっていくので、アンケートは今後も続けていきたい。

◇再造林推進部会<事務局>

- ・資料に添って説明。

◇木質バイオマス利用促進部会<事務局>

- ・資料に添って説明。

②大館市

- ・ 資料に添って説明

③北秋田市

- ・ 資料に添って説明。

④上小阿仁村

- ・ 資料に添って説明。

⑤森林資源バイオエコノミー推進機構(株) (委託事業者)

- ・ 資料に添って説明。

○質疑

- ・ なし。

(2) 令和2年度各部会の取組状況に関する意見交換

①各部会担当事務局より意見交換テーマの説明<事務局>

②グループワーク

◇再造林推進部会

<共通テーマ>

①R2上半期の振り返りと今後(R2下半期、R3年度)について

- ・ 9月下旬協定フィールド現地確認後、見積書提出・契約締結を経て伐倒開始。11月中に造材、地拵え終了の予定。降雪時期を迎え除雪作業を考慮すると、売り先がはっきりしているなら搬出を加速させる必要あり。
- ・ 来春、林道補修実施予定(冬季実施せず)。
- ・ 来春(雪解け次第、GW明けを想定)、コンテナ苗植栽予定。6月中植栽完了予定。

②総務部会・事務局の取組みに関する意見、要望

- ・ R3年度フィールドについて、スケジュール感が掴めない。林業専用道整備の進捗状況・繰越の有無、施業開始時期等が不透明の為、情報提供願いたい。
- ・ R3年度フィールドプレイヤー、木材流通事業者は誰になるのか? 国有林プレイヤーと市有林プレイヤーは同一なのか、バラバラなのか? その決定方法は如何に?
- ・ R3年度フィールドの実際の施業面積は? 単年度事業(期間)か? 発注時期は?
- ・ R3年度フィールドの国有林は一般競争入札か? 市有林も同様に入札か?

＜部会テーマ＞

○【①・②】協定フィールドの施業について（進め方、改善点）

- ・＜共通テーマ＞と同様

◇秋田スギ・認証材利用促進部会

○【①】都市部アンケートについて（マーケティング、需要開拓について）

- ・中京圏、近畿圏は遠く、地産地消の木材もあるため、秋田の事業者が入る余地はほぼないだろう。静岡、北陸あたりが限界。北関東や東北に絞っても良いのではないか。
- ・次回アンケートするなら聞いて欲しい内容として、大阪万博はSDGsがテーマになるので木を使う可能性が高い。そこに向けてどういう準備をしているか、森林認証材を使うのかなどを調査して欲しい。
- ・こういう物件は大手が受注するため、大手をターゲットにしてはどうか。

○【②】パンフレットデザインについて（コンセプト、要望など）

- ・各会員1枚パンフレットに挟み込むもの。
- ・自治体としては一社だけを紹介出来ないので、協議会を紹介する際にも利用できる。
- ・各社にHPがあるので、呼び水となるパンフレットにして欲しい。
- ・地域で出来ることを目で訴える＝実際に使われている有名物件の写真など。
- ・表紙は、手に取ってもらうため遊び心（インパクト）があるものにすべきである。

◇木質バイオマス利用促進部会

○【①・②】需給量調査内容について（調査内容について）

- ・一般木質材を発電に使おうとすると採算が取れないので、現状パルプに回してしまう。
- ・バイオマスボイラーの導入について、チップの価格やメンテナンスの面で薪ストーブの方が良いという事になり、現状厳しい。
- ・増産は可能だが、取引先が無いと結局ものを寝かせることになる。
- ・チップ乾燥機の増設導入はコストの面で難しい。
- ・需要がなかなか増えない。圏外への売り込みではあまり意味があるとは言えず、やはり3市村の協力が必要であり、頑張ってもらいたい。
- ・施設の木質化を進めると同時に、そこに付随する燃料の木質化も合わせて推進して頂きたい。
- ・「バイオマスの町づくり」というのもやるべきなのではないか。

③とりまとめ共有

◇再造林推進部会＜部会長＞

- ・9月下旬に現地視察し、見積りを2社が提出。10月上旬に機械搬入、伐倒開始。
- ・伐倒はほぼ終わり、あとは造材。雪が降る前に材の運搬を運送業者に早めに出してほしいと働き掛け。

- ・ 植栽は来年6月中には終了予定。
- ・ 来年の民国連携のフィールドについて、プレイヤーがどうなっているのか、どんな作業になるのか見えて来ない。
- ・ 素材生産業者に何かしらのメリットが欲しい。

○民国連携のプレイヤーについて<事務局>

- ・ 協定林として協議会と協定を結んでいるので、昨年同様、森林組合に委託している状況。市の公募の事業ではなく協議会で決めていくことになる。
- ・ 民国連携は「協調出荷」であり、国有林の材と一緒に市有林の材も供給していく。
- ・ 国有林とプレイヤーの決め方は異なるので、別々の業者になる可能性はあるが、一緒に材を出すという共通の目的をもって連携していきたいと考えているので今後の組み立て方については再造林部会で引き続き検討していきたい。

○国有林の発注スケジュール、エリアについて<オブザーバー(米代東部森林管理署)>

- ・ 森林面積は大きいが伐採面積は60ha、発注は来年度一カ年になる。発注時期は通常6月頃、販売は9月以降、1月か2月までに販売するという形の協定になるかと思えます。

◇秋田スギ・認証材利用促進部会<部会長>

- ・ アンケートに関して中京、近畿からはほとんど返ってきてないのではないかと。秋田スギに対する返答は期待できないのではないかと。静岡、北陸ぐらいに絞ってみてはどうだろうか。
- ・ 大手プレカット工場(住宅部材)、大手ビルダーやゼネコン(非住宅部材)等へオリパラなどのビックプロジェクトに使われている材料を調査したり、大阪万博の情報も得られるアンケートが良いのではないかと。
- ・ パンフレットに関しては「よくある」ものにならないよう、地域の特性を表現できるような工夫が欲しい。

○パンフレットデザインについて<事務局>

- ・ 木材にこだわらず地域の資源、例えば秋田犬やマスコットキャラを使ったりして、手にしたくなるような表紙を意識してみてもどうかという意見もあったことから、そういった方向でも組み立てていきたいと思っている。

◇木質バイオマス利用促進部会<副部会長>

- ・ 余力はあるといっても需要と供給のバランスが悪く、需要があまり増えない。
- ・ チップは作れるが、消費先が無い。協議会として市村に施設を増やしてほしい。
- ・ 施設の木質化を進めると同時に、そこに付随する燃料の木質化も合わせて推進して頂

きたい。

- ・炭素ゼロに向けた取組も絡めてバイオマスを推進してもらうよう協議会として取り組んでいただけたらと思う。

○質疑

＜秋田スギ・認証材利用促進部会 会員＞

- ・市有林フィールドからの伐採で収益が出た場合、林野庁の補助とは別会計で一部の資金を林成協の活動資金としてPRの為に使えるように出来ないか。

＜事務局長＞

- ・検討するが実現は難しいと思う。

＜森林資源バイオエコノミー推進機構(株)（委託事業者）＞

- ・現在、都市の非住宅分野の木質化が加速してきている。林成協の進んでいる方向に間違いは無い。
- ・鹿児島で7社が出資をして会社を立ち上げた。これまでの林業を取り巻く環境が変わってきた。このような会社の魅力のある地域だと感じてもらえるように協議会として良い成果を出して欲しい。

4 その他

○オブザーバーより

＜米代東部森林管理署＞

- ・民国連携の協定に関して、はっきり申し上げられるのはまだ先。
- ・アンケート結果について、とても勉強になり、今後のクロス集計がとても楽しみ。
- ・部会の目標について、国有林にも声をかけていただければ協力したいと思う。

＜秋田県農林水産部（林業木材産業課）＞

- ・本事業も4年目になる。現在中間報告の為に書面調査、現地調査の日程調整をしている。また国から川下の取り組み事例の情報提供を（良い事例があれば）求められていたりしているのでその際には木高研にもご協力いただきたい。
- ・さらに国から事業について対外的な説明を厳しく求められているので、地域構想の進捗状況についてそれぞれの目標への取組の検証もよろしくお願ひしたい。

○アドバイザーより

＜秋田県立大学木材高度加工研究所＞

- ・コロナ禍でも家具メーカーでは業績を伸ばしている。
- ・新しい需要が出てきており、それに合わせた柔軟なPRを。

- ・ 使う人の目線に立った林業経営というのもひとつである。
- ・ 林野庁がウッドチェンジを提唱しているが、ネット通販サイトを利用した販売とPRを行なっている。そういったところを使ったPR、マーケティングも良いと思うし、積極的に使っていくことも考えるべき。
- ・ FSCの認知度について、10～20代の若い世代が多く、これは30年後の顧客とも考えられる。
- ・ ニーズから杉を育てていくという考え方も面白い。

○事務局より次回全体部会予定を連絡

令和2年12月16日（水）午後

大館市北地区コミュニティセンター 別館 多目的室

～閉会～

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 R2.10.30 第12回部会

